

報道機関 各位

デング熱媒介蚊（ヒトスジシマカ）の生息調査の結果について（1回目結果）

平成27年8月11日に市内の3公園で実施した「デング熱媒介蚊（ヒトスジシマカ）の生息調査」の結果がまとまりましたのでお知らせします。

今回の調査で、デングウイルスを保有するヒトスジシマカは、確認されませんでした。

1. 調査日、調査場所等

調査日：平成27年8月11日(火)

調査場所：市内の公園3箇所

- ①勝山公園（小倉北区内）、②夜宮公園（戸畑区夜宮・一枝）、
③曲里の松並木公園及び周辺（八幡西区岸の浦）

調査方法等：蚊を人囮法*で捕獲し、本市の環境科学研究所において、デングウイルスの保有について検査を行った。

※人囮法(ひととりほう)：人に近寄る蚊を網で採集する(1回8分程度)方法

2. 結果

調査場所	調査地点	蚊の捕獲数	うち、ヒトスジシマカの捕獲数		デングウイルスの保有 *検査はヒトスジシマカのメスを対象に行った。
			【メス/オス】		
勝山公園	1	4	4	4 / 0	陰性
	2	44	44	29 / 15	陰性
	3	1	1	1 / 0	陰性
	4	6	6	4 / 2	陰性
	(計)	55	55	38 / 17	
夜宮公園	1	8	8	5 / 3	陰性
	2	0	0	0 / 0	陰性
	3	12	11	8 / 3	陰性
	4	59	58	51 / 7	陰性
	(計)	79	77	64 / 13	
曲里の松並木公園 及び周辺	1	5	5	5 / 0	陰性
	2	1	1	1 / 0	陰性
	3	1	1	1 / 0	陰性
	4	0	0	0 / 0	陰性
	1 *1	23	23	19 / 4	陰性
	(計)	30	30	26 / 4	

*1 蚊の捕獲数の合計が10匹に満たない場合は、4つの調査地点のうち蚊が最も多く捕獲された地点で追加調査(人囮法、捕獲時間30分)を行った。

3. 次回調査

2回目の調査は、平成27年9月3日(木)、同じ公園で同一時間帯に実施する予定。

4. 市民の皆様へ

デング熱以外にも、日本脳炎など蚊を媒介した感染症は世界的に流行しています。
蚊が活発に活動する時期であり、できるだけ蚊に刺されないよう、防蚊対策を心がけましょ
う。

《予防策(例)》

- (1) 蚊を増やさない（水溜りをつくらない、雑草や剪定を行い蚊の潜み場所をつくらない）
- (2) 蚊にさされない（屋内への蚊の侵入を防ぐ、肌の露出を減らす、虫除けスプレーや蚊取り線香等を上手に使う）
- (3) デング熱流行地（主に熱帯・亜熱帯地域）へ旅行される際は蚊に刺されないように注意しましょう。

5. 参考

(1) デング熱について

- ・ デング熱とは、デングウイルスを保有する蚊（ネッタイシマカなど）が媒介する感染症で、感染3～7日後に急激な発熱で発生し、頭痛、関節痛、嘔気などの症状が起こる。約1週間程度で回復するが、ごくまれに重症化する場合がある。
- ・ 人から蚊（主にネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）、蚊から人で感染が伝播し、人から人への直接的な感染はない。 主たる媒介蚊は、ネッタイシマカ（日本には常在しない）であるが、日本のほとんどの地域で見られるヒトスジシマカも媒介する。
- ・ デング熱は、熱帯や亜熱帯の全域で流行しており、東南アジア、南アジア、中南米で患者の報告が多い。
- ・ 例年、海外帰国者の感染例の報告はあるが、平成26年8月に約70年ぶりに国内（東京都内の公園周辺等）における感染事例が報告された。

(2) ヒトスジシマカについて

- ・ 本州の秋田県及び岩手県以南から、四国・九州・沖縄・小笠原諸島まで広く分布する。
- ・ 5月中旬～10月下旬にみられる。
- ・ 雌は産卵や吸血を行いながら移動し、50～100m範囲で活動する。